

# 岡山から世界へ

## チャムロン氏訪問記



▷下◁

藤井虎雄・岡山市高松農協組合長がチャムロン氏に尋ねた。「農業の若い後継者が日本にはない。タイでも同じではないか。チャムロンさんは、後継者の問題をどう考えているのか」。チャムロン氏は「私は農業はすばらしい職業だと思ってる。だから、全国を回って若い人たちにこのことを訴えていると答えた。そして「日本の後継者がいないのはいいこと。農作物をタイから買ってください」と言っていて、笑いを誘った。

バンコク市内にあるチャムロン氏の事務所での懇談の中での会話。聞きよによって、チャム

ロン氏の言葉はとんでもないものにも思える。しかし、この言葉でお互いに笑えるのは、心の底で通じているからだ。ナコーン・パトムの農

に、チャムロン氏は窓を開けて何か語りかけた。女の子はにっこり。そして、チャムロン氏は手に持っていた果物を彼女に差し出した。あとで聞け

私はもう五十七歳。タイの平均寿命は六十年だから

にはすでに一・六秒もある敷地を確保し、農業指



メンバーとの歓談で笑顔を見せるチャムロン氏

# 本物の交流とは

## 宗教、文化の理解が基本

業村からバンコク市内まで、チャムロン氏も一緒にワゴン車に乗り込んだ。約一時間、市内に入り、悪名高い大渋滞に巻き込まれてうんざりしたところ、歩道で清掃作業をしていた若い女の子

ば、チャムロン氏はバンコク知事時代、街に出て作業員とともに毎朝、街頭を清掃していたという。

「タイがほんとうにいい国になるには、まだあと二十年かかると思う。

ら、残された時間はあまりない。これからは、タイのさまざまな面をリードしていく指導者を育てていきたい」と、チャムロン氏は話す。今回は時間都合で見学できなかったが、カンチャナブリ

導者学校設立に向け、計画は順調に進んでいるという。

岡山国際協力機構はすでに、一東北タイ農村基金を発足させ、募金も徐々に集まりつつある。目的は、農業と健康の二

本立てで、農業ではチャムロン氏の農業指導者学校の支援や有機農法研修の受け入れなど、健康では、医師、看護婦、保健婦など医療従事者の研修受け入れなどを予定している。

これまで、アジアでの難民救援などさまざまなプロジェクトを実施してきたアジア医師連絡協議会（AMDA）の菅波茂代表は言う。「今回の訪問で、新たに発見したことがいくつもあった。国際協力はしっかりと相互理解がないと成立しな

いと思うのだが、相手の国を理解するということは、宗教や伝統文化をまず根本にしなければならぬということを痛切に感じた。言葉ができるとか、そんな表面的なことでは、本物にはならない」と。

海外へ渡航する人は多い。県内で生活する外国人も、年々増えている。これからの真の意味での国際協力が問われる時だ。「岡山から世界へ」という目標を掲げ、発足した岡山国際協力機構にかかる期待は大きい。



バンコク市内にあるチャムロン氏の自宅を見学する岡山国際協力機構のメンバー